

鳥取空港へのコンセッション方式導入検討について

平成 29 年 8 月 18 日
空 港 港 湾 課

現在実施中の「鳥取砂丘コナン空港運営方式効率化に関する検討業務」(みずほ総研(株))
において、より自由度の高い民間による管理運営方式であるコンセッション方式での収支
シミュレーションにより、施設所有者(県)のVFMが見込めるとの結果が得られました。

(注1) PFI コンセッション 別添資料のとおり

(注2) VFM(Value for Money) 従来の直営方式と比べて民営化による総事業費の削減効果

1. 民営化(コンセッション)の目的

- ・鳥取砂丘コナン空港の管理運営にコンセッション方式を導入し、民間による一体的かつ機動的な空港経営により、鳥取砂丘コナン空港の空の駅を推進し、空港管理の効率化、空港の利用促進、空港を拠点とした賑わいを創出する。
- ・空港来訪者の増加による空港の収益向上と交流人口の拡大による観光や地域活性化の相乗効果を実現する。

2. 事業期間中(5年9ヶ月:H30.7~H36.3)のVFM(シミュレーション結果)

県財政支出削減効果：16百万円～28百万円

〔主要因〕

- ・運営者による維持管理コスト削減およびテナント収入等の収益増
⇒1/3が県、2/3(課税あり)が運営者の収益となる。(指定管理と同様)

【シミュレーション条件】

- ◇維持コストの削減：民営化で一般的に削減される5%～10%に設定し算出
- ◇テナント収入等増益：民間誘致によるテナント料と空港管理条例貸付料との差額により算出
 - ・湖山地区の民間テナント料を参考に設定：2万円/㎡・年～3万円/㎡・年
 - ・空港設置管理条例による貸付料：9,840円/㎡・年

〔シミュレーションで考慮していない主なコスト削減または収益増加要因〕

- ・空の駅等の取り組みによる空港来訪者の増加による収益の増加